

6年「想いをバトンにのせて」【総合（生活数理）】

運動会のリレーで、より速く走るためにチームで協力してタイムを縮める目標を立てました。そのために、「一人一人のタイムやリレーに対する思い」をもとにして、バトンゾーンを生かしながら走る順番と走る距離を決めていきました。

1 課題をつかみ、見通しを持とう

- 条件**
- ①最後の4人の走順を決める。運動場1周200m。
 - ②バトンゾーン（20m）の中でバトンの受け渡しをする。

【単元デザインの工夫】

事前に試しのリレーを行い、走る順番や距離を変える必要性について児童が主体的に考えることができるようにする。

〈子どもたちが考えた作戦〉

- 速い人が長く走る。自信のない人は短く。
- 助走する距離を考えて待つ、スタートする。
- できるだけ内側を走る。

2 算数や体育の学習を生かし、リレーの作戦を立てよう

① 最後の4人の走番と距離をどのように変えるとよいか、想いをふまえて考えました。

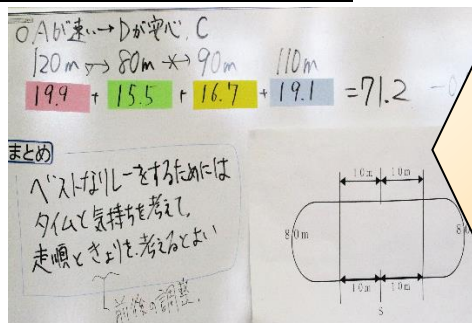
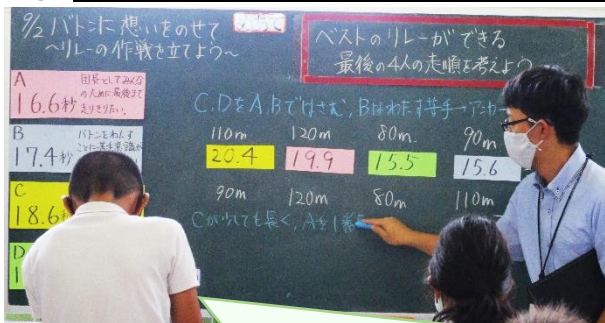


算数や体育で学習してきたことをもとに4人の合計タイムを求めました。タブレットで自分の考えを撮影し、グループで共有し、意見を交流しました。「最後は大事だから、一番速い人にした方がいいかな？」

【質の高い課題設定】

順位だけではなく、タイムの伸びや個々の思いの実現も大切な要素であることに気付かせ、考えを深める。

② 考えを出し合い、4人の合計タイムが縮まるのかを確かめました。



【学び合いのコーディネート】

運動場の縮図を掲示し、走順や走る距離が変わることを確認しやすいようにする。ICTを活用し、個人の考えを全体で共有する。

Cさんはタイムが遅めだが少しでも長く走りたいので90m、Aさんは回長で一番速いので120m、Dさんは距離を短く80m、バトンパスが苦手なBさんはアンカーで110mにすると、合計71秒で走ることができ、タイムが立ちまる。

3 やってみよう(体育、運動会)

チームで話し合った作戦をもとに、実際にリレーでタイムをとり、走順や距離などを検討していきました。



4 振り返り

- 一人一人が走る距離や走順を変えると計算上では早くなるけど本当にそうかを実際走って確かめられたので良かったです。
- バトンをもらう場所を友達と一緒に考えました。一人一人の想いを大事にした走順を考えて、更にタイムが速くなったのでうれしかったです。

【振り返りの工夫】

生活数理の学習が、実生活に生かされたことを実感している。